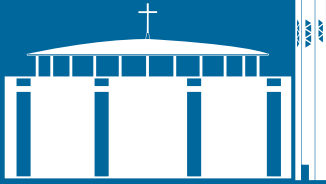


10月



カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

2026年度教会テーマ

ひとつになろう キリストのうちに 〜ともに歩む教会へ〜
Journeying Together as One Community to Jesus

ロザリオの祈り・聖母マリア・

私たちの信仰生活

イエズス会司祭 グエン・タン・アン

教会では、毎年10月は「ロザリオの月」とも呼ばれ、私たちは「ロザリオの祈り」を唱えるよう招かれています。では、「ロザリオの祈り」とは何でしょうか。この問いに答えることは、それほど難しいことではないでしょう。それは、私たちにとって、とても身近な祈りだからです。「ロザリオの祈り」は、「アヴェ・マリアの祈り」を繰り返し唱えながら、福音書に記された主イエス・キリストの生涯と救いの出来事を観想する祈りです。一つひとつの「アヴェ・マリアの祈り」は、一輪のバラの花のようです。それを重ねていくことによって、

また、「ロザリオの祈り」によって、日々の信仰生活の中で聖母マリアの助けと取り次ぎを求めます。聖母マリアはキリストの母であり、同時に私たちすべての母です。それゆえ、私たちは信じています。子どもたちを常に気にかける母親の心を持つ聖母マリアは、必ずや私たちの困難や問題を見守り、願ったことを聞き入れ、主の前で執り成してくださるはずだと。カナの婚礼における聖母の姿を思い起こす時、そのことを確信できると思います。カナの婚礼で聖母マリアは新婚夫婦が結婚生活の始まりに直面した困難



——ぶどう酒がなく

なったこと——に気づきました。聖母マリアは、それが喜びの象徴である宴会を台無しにしかねない事態であると理解し、人々が求めているものをイエスに明確に伝えました。その結果、聖母マリアの執り成しによって、主イエスは新婚夫婦に良いぶどう酒をお与えになり、それで2人の婚礼は満たされたものとなりました。

「ロザリオの祈り」を通して、誰よりも主イエスを深く知っておられる聖母とともに、イエス・キリストの歩みをたどりまします。すなわち、主の受肉とその隠れた生活（喜びの神秘）、公生活（光の神秘）、受難（苦しみと神秘）、そして復活（栄えの神秘）に至るまで、主が救いのために歩まれた道を一つひとつ思い起こし、黙想するのです。このようにロザリオを祈る時、ただ同じ祈りの言葉を繰り返しているのではなく、聖母マリアとともにキリストを見つめ、その姿を心に留めながら、少しずつ主イエスに倣って生きる者へと変えられていきます。そして最後には、聖母マリアとともに、父なる神が主イエ

ス・キリストを通して約束してくださった喜びと平安にあずかることができるでしょう。

このように、「ロザリオの祈り」は特別な知識や技術を必要とせず、誰もがいつでも祈ることのできる、とても身近で素晴らしい祈りなのです。何よりも、それは聖母マリアの助けと取り次ぎを求めるための手段であり、聖母マリアとともに救いの源である神へと導き、神との親しい交わりへと招いてくれる、大切な霊的な道であると言えるでしょう。

教会報 MAGIS10月号

† SJ ハウス紹介	P2～3
† ご帰天 ジェリー・クスマノ神父様	P3
† イグナチアンユースデー2026	P4
† 子どもとともにささげるミサ	P5
† (教会活動連絡会便り) 広報連絡会	P6
† Family of St. Ignatius ～英語圏から～	P7

【10月の共同祈願】

この教会は、多国籍の方々が大勢集います

イエスさまを牧者とした同じ牧場の羊として

言語や文化の違いを受け入れ、交流しながら

良き共同体を築いていくことができますように

教皇レオ十四世初の回勅 公式訳 発行

回勅『人間の偉大さ—— AI の時代における人格の擁護』



5月25日に公布された教皇レオ十四世の初の回勅『マニフィカ・ウマニタス』の公式訳が9月30日にカトリック中央協議会より書籍として発行されました。

祈りと奉仕の多様な共同体

S J ハウス 紹介

S J ハウス院長 梶山義夫

「S J ハウス」という名前を耳にしたことはありませんか？
上智大学に隣接するこの修道院では、大学や教会、社会のさまざまな現場で人々に寄り添う神父様たちが生活をともにしています。互いの働きを支え合いながら、ともに祈り、歩みを進める共同体の姿について、S J ハウス院長の梶山神父様にご寄稿いただきました。

実に多様な使徒職共同体

S J ハウスの S J とは、Society of Jesus（イエズス会）の略称である。地名を取って「紀尾井町レジデンス」とも言う。現在 S J ハウスの基本的な構成は、上智大学に隣接した部分にある「紀尾井町レジデンス」と目黒区駒場にある「ザビエルハウス」という二つの部分から成り立って、一つの共同体を成している。

イエズス会員の総数は、二つ合せて、司祭37人、神学生1人、ブラザー2人である。そのうち、場所が上智大学で働く会員が日本管区に属する者で15人、それに2人程度の日本管区以外の会員が客員教授、さらに管区

外から上智大学で学ぶ会員が居住している。

次に会員が関わっている使徒職は、聖イグナチオ教会である。主任司祭の高祖敏明神父、協力司祭のマヌエル・シルゴ神父、関根悦雄神父、作道宗三神父、グエン・ヴァン・テー神父、そして公的なタイトルは持たないが何人もの会員がミサやゆるしの秘跡、聖書研究会や結婚講座、聖イグナチオ教会とイエズス会社会司牧センターが共催している「社会問題とカトリック教会の考え」連続セミナーなどで奉仕している。

大学を退職したのち、研究活動に献身している会員も多い。また練馬区にある日本カトリック神学院や仙

台教区の小教区、いくつかのカトリック大学やカトリック学校、黙想同伴などの霊的使徒職や正義と平和、エコロジーなど社会使徒職、そしてイエズス会管区本部で働いている会員もいる。実に多様である。

神のみ心を探る究明

イエズス会の共同生活、それはともに祈ること、ともに食事をすること、ともに休憩をすることである。一般に修道生活の祈りは共同体で朝の祈りと晩の祈りという「聖務日課」とともにし、ミサを共に祝うことであるが、イエズス会の場合には、その活動の多様性のゆえに創立当時から「聖務日課」とともに唱えない。あまり歌に秀でていない会員がいるわけである。

しかし一人で唱える時にも、教会全体と心を合わせて祈り、その際必ず信徒の方々のために祈りを捧げている。またロザリオとか十字架の道行などの信心業も共同体として行わない。

聖イグナチオ・デ・ロヨラの霊性に生きようとする会員にとって最も大切な時間

は、究明である。日に二度、それまでの時を振り返り、どのような恵みをいただいたか感謝し、またその恵みによって神のみ心を行ったか自問、これからの時間をいかに生きるように召されているか思い巡らす。究明の主題は神のみ心である。夜、聖堂に行くと聖体を前にして静かに祈る会員がいる。

使徒職の方向づけとともに

イエズス会員はどのように聖イグナチオ教会に奉仕できるのだろうか。2019年にアルトゥーロ・ソーサ総長は「イエズス会使徒職全体の方向づけ」を発表し、すべての会員がその方向性に自らを捧げるように求めた。それは4つの項目から成り立っている。

A 霊操および識別を通して神への道を示すこと

B 和解と正義のミッションにおいて、貧しい人々、世界から排除された人々、人間としての尊厳が侵害された人々とともに歩むこと

C 希望に満ちた未来の創造において若い人々

とともに歩むこと

D「ともに暮らす家」

(地球)への配慮と世話を協働して行うこと

このミッションを果たすためには、イエズス会自体がさらに回心し、新たな道を歩まなければならない。共同体の在り方はそこが問われる。

新たな共同体の形成に向けて

4年前に管区長は、六甲共同体、広島共同体、山口島根共同体、福岡共同体、長崎共同体を一つに統合して、西日本共同体とした。同じような変革が東京でも必要であり、四谷ミッションセンター共同体の形成が必要である。それはただ組織の改編ではない。さまざまな使徒職に関わる会員が、前述の「方向づけ」に基づきながら、ともに祈り、ともに生活しながら、共同で神の心が私たちに何を求めておられるかを識別することができるとの共同体の形成である。

私たちは会員のためにぜひ祈っていたきたい。私たちも聖イグナチオ教会に集う皆さまのために、日々祈りを捧げています。



▲図書室



▲SJハウスエントランス



▲上智大学構内にあるSJハウス



▲寝室



▲休憩室



▲食堂

訃報 (R.I.P) ジェリー・クスマノ神父

8月18日(日)帰天されました。81歳。通夜は8月20日(木)、葬儀は8月21日(金)、聖イグナチオ教会で執り行われました。

クスマノ神父様は長年、上智大学で教鞭をとりながら、聖イグナチオ教会で告解を担当されたほか、信徒のみなさんに太極拳を教えておられました。晩年、2025年4月から2026年6月までは、聖イグナチオ教会協力司祭として司牧活動、霊的指導をされました。

略歴

1945年2月25日 米国セントルイス市に生まれる
1963年9月1日 イエズス会入会 (ミズーリ管区)
1967年9月4日 来日
1971年～1973年 栄光学園(鎌倉)で英語を教える
1976年12月4日 司祭叙階(東京)
1979～81年、87～90年アリゾナ州立大学で心理学を学ぶ(博士号)
1982年～1986年 栄光学園でカウンセラー、倫理と英語を教える
1991年～2015年 上智大学で心理学を教える
1991年～2009年 上智大学のカウンセリングセンター長
2002年～2008年 紀尾井町修道院(SJハウス)院長
2010年～2026年 学校法人カリタス学園理事
2014年～2020年 上石神井修道院院長
2020年～2025年 イエズス会神学院で日本語学生担当
2025年～2026年 東京麹町(聖イグナチオ)教会で司牧活動
2026年6月～ ロヨラハウス
2026年8月18日 帰天(ロヨラハウス)



▲SJハウス中庭SJガーデンに佇む聖イグナチオ像

4つの青年会が一堂に イグナチアンユースデー2026

「ともに暮らす家」で

7月26日(日)16時からヨセフホールにてイグナチアンユースデー(以下IYD)が行われました。日本の青年会をはじめ、英語圏、インドネシア・ベトナムの共同体から約50名の青年たちが集まり、聖イグナチオ・デ・ロヨラの回心について話を聞いて黙想した後、分かち合いや各青年グループが持ち寄ったスナック菓子・ゲームなどで交流を深め、互いのグループに橋がかかる一日となりました。普段、なかなか関わりが持てないグループ同士が集い、ともに時間を過ごすことで互いを知り、「ともに暮らす家」である聖イグナチオ教会がいつそう神さまのみ旨にかなうものとなるための一歩を踏み出す機会となりました。

森晃太郎神父(イエズス会日本管区 青年司牧担当)

つながる喜びを感じる体験

日本の青年会としてIYDに参加しました。英語圏やインドネシア・ベトナム共同

体の代表の方々と打ち合わせを重ね、当日は大いに盛り上がり、来年のワールドユースデー(WYD)に向けて有意義な時間を過ごすことができました。普段は他の青年会と関わる機会が少ない中、今回をきっかけに教会でも積極的に話す仲になりました。教会での活動を通して人と人がつながる喜びと、神様のお恵みを身近に感じる貴重な体験でした。

(日本青年会代表)

交流の輪をさらに広げよう

IYDで行われた交流では言語の違いを超えて互いを知るよいきっかけとなり、お祈りや分かち合いの時間は静かに心を通わせる大切なひとときとなりました。続く軽食やゲームの時間は笑顔があふれ、心の距離が一気に縮まりました。

今回の集いが聖イグナチオ教会の若者の絆を深め、互いの文化や視点を理解する貴重な機会になったと感じています。参加した皆さん

の温かい笑顔に触れ、とてもうれしく思いました。この素敵なつながりを大切に、今後とも若者同士の交流の輪がさらに広がっていくことを心から願っています。

(ベトナム共同体青年会代表)

イエスさまを真ん中にして

ボニー神父様からインドネシアグループのリーダーをお願いされ、お引き受けしました。正直に言うとう、最初はこのイベントにさほど乗り気ではありませんでした。

しかし最初の準備ミーティングでみんなの熱意と活気に触れて、気持ちがすっかり変わりました。そしてイベントを盛り上げるため、私たちはお菓子を持参しました。みんなに喜んでもらえる

よう、インドネシアの伝統的なお菓子と、日本の駄菓子を持って行って、当日分かち合いの時間に参加しました。短い時間でしたが、とても有意義で少なくとも2〜3人の新しい人たちと知り合うことができました。加えてこの日の一番の盛り上がりは、食事とゲームの時間で、とても楽しい時間を過ごし、かしまったカトリック教会の行事というより、楽しい若者のコミュニティの集まりのように感じました。

分かち合いの時間は短かったものの、私たちの真ん中に確実にイエスさまがおられるのを感じました。トラブルもなく、部屋中の人たちが笑い合い、楽しみ、平和を分かち合っていました。本当に素晴らしい経験でした。次回があれば、ぜひまた参加したいと思います！

(インドネシア共同体青年会代表)

ひとつになっても歩む

一年のほとんどの間、各青年グループは個別に活動しています。私たちは同じ教会の仲間として信仰を分かち

合っていますが、それぞれの活動に追われる中で、同じ場所に集まることはめったにありません。年に一度IYDがその状況を変え、すべての若者たちが一堂に会する機会を与えてくれます。

今回のIYDでは心を込めて作られた料理で埋め尽くされたテーブルがあり、その一つひとつの料理に、誰かの故郷の味をほんの少しだけ味わうことができました。お互いの笑い声で心が通い、翻訳を必要としないゲームもありました。言葉の壁は取り払われ、異文化間の境界線は、もっとシンプルなものに溶け込んでいきました。

神を愛する若者たちが、一つの場所に集まっているという崇高な事実が現われた出来事でした。聖イグナチオ教会は、たまたま日曜日に集まっているだけの、ばらばらの共同体の寄せ集めではなく、私たちは家族であり、「ひとつになっても歩む」存在なのです。それがIYDの真髄です。そして今年度、私たちの教会を導くテーマでもあります。

(英語圏青年会代表)

赤ちゃんから高校生まで、子どもたちが主役 子どもとともにささげるミサ

奇数月の第2日曜10時より、主聖堂にて「子どもとともにささげるミサ」が行われています。楽器の伴奏で聖歌を歌い、子どもたちがさまざまな役割を担うミサをご紹介します。

奇数月の第2日曜日に、われ、小学生会、中学生会、高校生会に通う子どもたちが教会学校の主日ミサとして参列しています。主聖堂の祭壇前に子ども席や親子席が設けられ、通常のミサとは少し趣の異なる、子どもたちのためのミサとなっています。基本的に、子どもたちがミサを「ささげる側」となるのは侍者会に所属する子どもたちですが、「子どもとともにささげるミサ」(以下、子ミサ)は侍者会に所属していない子どもたちもミサを「ささげる側」になることができます。「子ミサ」は2000年頃から始まり、25年以上の歴史があるミサであり、侍者会以外の子どもたちもミサを「ささげる側」としてさまざまな体験をしてほしい、という思いから始まりました。

この日は、献金や先唱、朗読、共同祈願など、ミサの中



のさまざまな役割を子どもたち自身が担います。また、ギターやフルートなどの楽器演奏で聖歌を盛り上げたり、スライドを使ってその日の福音をわかりやすく伝えたり、子どもたちが理解しやすいよう工夫されているのも特徴です。奉納行列には小学生が並び、緊張しながらも一生懸命に務める姿が微笑ましく映ります。子どもだけでなく、「子ミサ」を楽しむにしてくださいという方も多くいらっしゃいます。

じ、自分の居場所として実感できるように、これからも「子ミサ」を続けていきます。

(子どもとともにささげるミサグループ ー)

9月に行われた

子どもとともにささげるミサ

9月13日(日)10時より、主聖堂にて行われました。この日のテーマは「おこるよ、いっしょにわらおう」。子どもたちにも説教が理解しやすいよう、その日の朗読箇所をもとにテーマが決められ、ミサは子ミサ専用の式次第をもとに行われます。

主司式のボニー・ジェームス神父は以下のように話をされました。「怒られたことがある人はたくさんいると思います。怒られると気持ちが悪いですね。間違っていないのに怒られることもあって、友だちから悪口を言われる時もある。そんな時、どうしたらいいか。

私が教会学校でシスターから教わった『ゆるす』ことについてお話しします。『十字を切れればいい』と言ったんですね。言い返したい時は落ち着いて、口元で十字を切

ります。十字架には力があると教えてくれました。たまに殴り合いもありました。その時は、手のひらに十字を描くと気持ちが楽になります。でも、どうして十字架を思い出したら、ゆるそうと思うのか。十字架には苦しみを受けているイエスさまがいま。私たちがすべての人々のために、イエスさまは十字架にかけられたけれど、イエスさまは復活します。十字架は復活の喜びに変わる、『ゆるさない』から『ゆるす』ことができる』に変わっていく、これが十字架から学ぶことです。その時代、十字架は死刑の道具だったので、恥のシンボルでした。でも、十字架はイエスさまによって、神さまの恵みの象徴へと変わっていきます。どんなに怒っていても、十字架のように変わっていく

ことができるという意味です。だから、十字架を大事にしているんです。

人を『ゆるす』ことは簡単ではなく、神さまの恵みがあてできることだと思えます。暮らしのさまざまな場面で、この恵みを生かしていくことができるよう祈りましょう」

＊次回の「子どもとともにささげるミサ」は11月8日(日)10時からです



▲子ミサの式次第と聖歌集

教会活動連絡会便り

当教会の各連絡会から、活動状況の報告や構成するグループからのお知らせなどをお伝えいたします。

広報連絡会

教会の広報は、信徒に対する広報と、対外的な広報に大きく分けられます。対外的な広報は、広報連絡会の各グループや、「教会案内グループ」などが連携して担っています。

SNSは、キリスト教や教会の活動を広く発信し、より多くの人に信仰の魅力や教会の存在を知ってもらうために、とても重要な対外広報ツールとなっています。

もつと身近に！

教会公式SNSのご案内

聖イグナチオ教会では、フェイスブック・X・インスタグラムの3つの公式SNSを運用しています。フェイスブックに加え、コロナ禍をきっかけに始まったXとインスタグラム。それぞれに特色があります。

●フェイスブック

香部屋など、普段はなかなか見ることでできない場面を紹介しています。

●X(旧ツイッター)

朝の挨拶とともに、その日の福音から「みことば」をお届けしています。一日の始まりの祈りにお役立てください。

●Instagram

「写真チーム」が撮影したミサや行事の写真を中心に投稿しています。海外からのフォロワーも多く、カトリック教会同士のつながりも生まれています。

SNSをあまりご覧にならない方も、ぜひ一度覗いてみてください。それぞれ違った楽しみ方があります。教会を身近に感じるきっかけとしてご利用いただければ幸いです。



▲フェイスブック

▲X

▲Instagram

そして、教会に訪れる方実際に接するのが、「ウェルカムテーブル」や「教会案内グループ」です。教会の顔となるため、訪れた方との出会いがよりよいものとなるよう工夫を重ねています。

ウェルカムテーブル

訪れた方を笑顔でお迎えして教会とつながる役割を意識しています。「キリスト教にひかれてホームページを見て来た」「聖書の勉強をした」「SNSで見た『教会案内ツアー』に参加したい」「クリプタはどこですか」「○○神父様にお会いしたい」という方々、巡礼者や旅行者、受洗・転入して間もない信徒

の問い合わせ、親御さんからの教会学校・青年会についての問い合わせ、外国の方からのお尋ねなどを受け、適切に対応できるよう教会事務室に確認しながらご案内します。ミサを体験したいという方は聖堂係に「初めての方です」と伝えてお連れし、ミサに同伴することも。聖年の際は、地方の工場で働いているというブラジル人のご家族、長く外国で暮らし「かつて受洗した聖堂を見たい」と家族に支えられて数十年振りに来た高齢の女性など、身振り手振りで会話をしました。

時には、「キリスト教と無縁だが親友が眠るクリプタを初めてお参りする」という初老の男性、「ミッシェンスクールに通っていた頃のキリスト教の雰囲気」が急に懐かしくなったという女性などもありました。聖イグナチオ教会は人々が神さまと初めて出会う場、改めて出会い直す場でもあると感じます。ご一緒に活動して下さい方、ウェルカムです……！

教会案内グループ

「教会案内ツアー」をご存

じでしょうか。私たち教会案内グループでは毎月第二日曜日の午前中に教会の4つの聖堂を中心に、教会内をご案内しています。

これまで、初めて教会の門をくぐる方から他教会所属の方、旅行者など老若男女、さまざまの方が参加されました。初めて聖イグナチオ教会を訪れる方には、カトリック教会を知ってもらうことから始めますが、当教会所属信徒にとっても、初めてがいっぱい詰まっていますよ。例えば、主聖堂の正面のイエスさまを製作した彫刻家が誰であるかとか、12本の柱の意味やステンドグラスについてとか、知るといろいろ興味が出てくると思います。

教会に行ってみたくいけれど、どうすればよいか分からない、という方があなたの近くにいらつしやいましたら、ぜひお誘い合わせの上ご参加ください。

■教会案内開催日

毎月第二日曜
10時半、11時開始(2回)
各45分程度

予約不要なので、当日ツアーデスクにおいでください。



Family of St. Ignatius

～英語圏から～

厳しい夏の暑さ、地震への警戒、そして予測のつかない雨に見舞われる中、多くの方々がお盆休みを過ごしたり、それぞれの母国へ帰省したりする一方で、イングリッシュセンターに残った私たちは、これから迎える多忙なシーズンに向けて準備を続けてきました。

9月6日に予定されていた今年度の英語圏日曜学校の開始式に向けての準備を整え、さらに10月にはファミリー・デー(10月4日)、リビング・ロザリー(10月18日)、そして、教会祭(10月25日)という3つの大きな行事を迎えるため準備を進めています。

また、結婚準備講座では10月に結婚を迎えるカッ

プルのための準備が進められ、大人のための入門講座(OCIA)も本格的に始動しています。さらに、聖体授与の臨時的奉仕者(EMHC)のための更新コースと、新しい奉仕者の養成も始まりました。

9月・10月号の英語版教会報では、この夏に私たちがともに楽しみ、取り組んださまざまな活動を振り返っています。ぜひ教会事務室前から一部お持ち帰りいただき、私たちと一緒にこの夏の思い出を振り返ってください。

そうです。イングリッシュセンターは、聖霊の恵みと、多くの協力者の惜しみない献身に支えられながら、これからも活気に満ちた歩みを続けていきます。

神のより大なる栄光のために。

(シスター フロール・フロレセ イエズス孝女会)

●2027年WYDソウル大会 信徒派遣のお知らせ●

2027年8月に韓国ソウルにて開催される「ワールドユースデー(WYD)ソウル大会」に当教会より若者たちを派遣いたします。

《応募期間は、2026年10月11日(日)から11月15日(日)まで》
応募資格、要綱について詳しくは、教会ホームページをご覧ください。



●初金聖歌隊30周年コンサート●

11月14日(土) 開演：14:00 開場：13:30 入場無料

会場：カトリック麹町 聖イグナチオ教会 主聖堂

指揮：大内葉子 オルガン：浅尾直子 チェロ：栗飯原亮太

第一部：・Eli Eli / Bardos ・Crucifixus / Lotti
・Misa Criolla / Ramirez より
第二部：・Cello 独奏 ・Organ 独奏
第三部：・Hodie Christus Natus est / Poulenc
・Gaudete / Anonymous ・Rejoice Rejoice / Stopford
第四部：・Requiem / Faure より ほか

☞初金聖歌隊ホームページ <https://hatsukin.jimdofree.com>

10 月の典礼と行事

2 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
4 (日) 年間第27主日	教会学校ファミリーデー
7 (水)	『社会問題とカトリック教会の考え 2026 年度連続セミナー』 18:30 ヨセフホール 2026 環境と貧しい人々 「わたしはあなたを愛してる」 貧しい人々への愛について 「いくつかの欠くことのできないことば (第 1 章)」 講師：梶山義夫神父(イエズス会社会司牧センター所長)
10 (土)	教勢調査 日本語ミサと外国語ミサ
11 (日) 年間第28主日	教勢調査 日本語ミサと外国語ミサ 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付 9:30 ~ 日曜サロン・ミニオリエンテーション(受け皿) 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール
14 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
17 (土)	長寿を祝うミサ 12:00 と長寿の集い
18 (日) 年間第29主日	幼児洗礼式(第 2 回) 10:00 ミサ リビングロザリー 16:30 世界宣教の日・献金
21 (水)	クリプタに安置され10月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2026 年度連続セミナー』 18:30 ヨセフホール 2026 環境と貧しい人々 「わたしはあなたを愛してる」 貧しい人々への愛について 「貧しい人々のための教会(第 3 章)」 講師：山中大樹神父(東京カトリック神学研究所教授)
25 (日) 年間第30主日	教会祭 11:00 国際ミサ
28 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後

マジス11月号は11月 1 日(日)発行予定です。

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

(9 月 10 日開催)

- ・10月17日(土)12:00 のミサを「長寿を祝うミサ」として、病者の塗油を行います。
引き続き、ヨセフホールにおいて「茶話会」を予定しています。
- ・10月25日(日)の教会祭は、11:00~国際ミサ/12:30~各国フードコーナー/13:00~パフォーマンスを予定しております。
皆で一緒にお祝いしましょう。
※10時/12時(英語)/13時半(スペイン語)/15時(ベトナム語)の各ミサはありません。
詳細は教会ホームページ、ポスター、チラシなどでご確認ください。
- ・今年度のクリスマスミサはいずれも**事前予約制ではありません。**
12月24日(木)の降誕祭前ミサ(日本語・英語)につきましては、当日整理券を配布いたします。
詳細は教会ホームページ、ポスター、チラシなどでご確認ください。

【災害支援募金のご報告】

*熊本地震支援募金 (8/1・2 実施)

募金総額 1,729,190円

カトリック福岡司教区および、カリタス・ジャパンに
864,600 円ずつ送金いたしました。

*コロンビア地震支援募金 (8/14・15 実施)

募金総額 680,805円

カリタス・ジャパンを通して、カリタス・コロンビア
に送金いたしました。

皆さまからお預かりした募金は、全額支援に充てております。温かいご支援に感謝いたします。

主任司祭：高祖 敏明
 助任司祭：ボニー・ジェームス
 グエン・タン・ニャー
 サトルニノ・オチョア
 柴田 潔
 協力司祭：ハビエル・ガラルダ
 グエン・ヴァン・テー
 関根 悦雄
 マヌエル・シルゴ
 作道 宗三
 神 学 生：アントニオ・マリオ・ダ・
 コスタ・ソアレ
 シスター：フロール・フロレセ
 ジェスリン・ブエンディア
 デイン・グエン・ゴック・
 トウエン
 カタリナ・パディージャ

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間

【平日】主聖堂

7:00/12:00/18:00

【土、日曜日】主聖堂

土曜 18:00/19:30 (ベトナム語)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (英語) /13:30 (スペイン語) /

15:00 (ベトナム語)

【土曜日】マリア聖堂

17:30 (英語)

【月の第 1 日曜日】マリア聖堂

13:30 (ポルトガル語) /16:00 (ポーランド語)

【月の第 2・4 日曜日】マリア聖堂

16:30 (インドネシア語)

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083

千代田区麹町 6 - 5 - 1

TEL 03 - 3263 - 4584

FAX 03 - 3263 - 4585

http://www.ignatius.gr.jp



Linktree (リンクツリー)



音訳 Magis

カトリック麹町聖イグナチオ教会 2026クリスマスミサ



★子どもと家庭のクリスマスミサ

12月19日(土) 主聖堂

予約不要 15:00

★降誕祭前夜ミサ 12月24日(木)

主聖堂

整理券配布【日本語】15:00 / 17:00 / 19:00

整理券配布【英語】21:00

上智大学10号館講堂

予約不要【ベトナム語】17:00 / 19:30

★主の降誕ミサ 12月25日(金)

主聖堂

予約不要【日本語】7:00 / 8:30 / 10:00 / 18:00

予約不要【英語】12:00

予約不要【スペイン語】13:30

予約不要【ベトナム語】15:00



* 詳細は裏面をご覧ください。

クリスマスミサのお知らせ

✠ 今年も皆さまとともに主のご降誕をお祝いできますことを心より嬉しく思います。
本年のクリスマスミサは以下の通り執り行います。

【ミサ日程】

12月19日(土)子どもと家庭のクリスマスミサ

・ 15:00 ~

12月24日(木)降誕祭前夜ミサ

・ 15:00 ~ **整理券配布**

・ 17:00 ~ **整理券配布**

・ 19:00 ~ キヤンドルサービス **整理券配布**

・ 21:00 ~ (英語) **整理券配布**

12月25日(金)主の降誕ミサ

・ 7:00 ~

・ 8:30 ~

・ 10:00 ~

・ 12:00 ~ (英語)

・ 13:30 ~ (スペイン語)

・ 15:00 ~ (ベトナム語)

・ 18:00 ~

12月24日(木)

上智大学10号館講堂

・ 17:00 ~ (ベトナム語)

・ 19:30 ~ (ベトナム語)



【入場・定員について】

今年のミサはいずれも事前予約制ではありません。

ただし12/24降誕祭前夜ミサ(日本語・英語)につきましては、当日整理券を配布いたします。
(岐阜ホール下入口にて配布)

①主聖堂 定員900名(座席に着席できない場合もあります)

②マリア聖堂 定員180名(配信ミサ・拝領あり)

③[英語ミサのみ] ヨセフホール定員200名(配信ミサ・拝領あり)

※各聖堂が定員に達した場合は、主聖堂前広場にてミサにおあずかりいただくことになります。
あらかじめご了承ください。

【高齢者・車椅子利用等配慮を要する方の事前登録について】

ご高齢の方(80歳以上)および車椅子利用や移動や着席に配慮を必要とされる方に限り、12/24の15:00および17:00のミサの事前登録を承ります。

- ・ 介助が必要な方は、**介助者1名のみ**同時にご登録いただけます
- ・ 所定のエリアにご着席いただきます(座席指定はできません)

⇒⇒事前登録受付は 12/1(火)~ 13(日)事務室横の用紙にご記入の上、
所定の箱にご提出ください(登録の順番は関係ありません)。
12/24 当日の整理券配布の詳細に関しましては、11月号の『マジス』、
後日配布のチラシ、後日掲載の教会ホームページをご参照ください。